

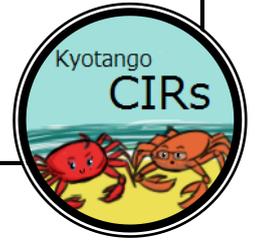
好奇新聞



京丹後市教育委員会事務局
学校教育課

平成30年2月 Vol.16

へんしゅうしゃ
編集者: ジョセフ・オーエン



好奇: 「こう-き」めずらしいことや未知のことに対して強きよみを持つこと

「こうきしんぶん ほん けいさい けんさく」
好奇新聞カラー版は京丹後市ホームページに掲載してありますので、ぜひ検索してみてください！



今年の2月16日は旧暦のお正月「春節」となります。春節は、中国や台湾にとって新暦のお正月(1月1日)よりも大切です。この日から15日間にわたって様々な行事が開催されます。台湾で行われる、平溪のランタン飛ばし、塩水爆竹祭り、そしてランタンフェスティバルの3つが有名です。今回は台湾を舞台とし、この3つのお祭りを取り上げて、紹介します。話題は台湾民族、更に民族音楽に展開します。

まずは、台湾はどんなところ？

台湾本島は北海道の半分ほどの面積で、

日本の最西端にある与那国島から更に100kmほど西に位置しています。気候は亜熱帯に属し、パイナップル、マンゴー、パパイヤ、バナナなどの果物が栽培されています。1960年以前、台湾の主な産業は農業で、その時、日本で売っていたバナナはほとんど台湾産でした。1970年代以降、果物よりも機械に注力し、キーボードやパソコンを生産し、ついに1999年には世界のノートパソコンの売上高が日本を抜いて世界一となりました。



出典: <https://commons.wikimedia.org/>

平溪天燈祭: 平溪のランタン飛ばし

平溪は台湾の新北市にあり、天燈は熱気球式のランタン(提灯)のことです。旧暦で最初の満月が昇る1月15日(小正月)に、お正月が終わります。その夜に平溪で10万個にも及ぶ黄色いランタンが放たれます。ランタンは紙で作られ、中の炎が空気を暖めることによって空高く上がります。かつて、戦争の時に「この村は無事だ」と知らせるために大きなランタンが使われたそうです。現在では、日本のどんどやきのように、神様にお願いをしたり、祖先を奉るためにランタンにメッセージを書きます。



出典: <https://commons.wikimedia.org/>

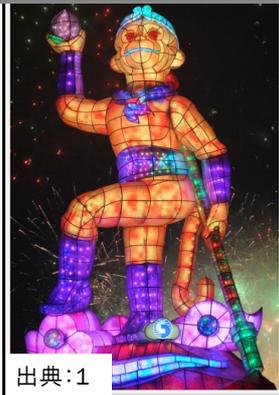
塩水爆竹祭り

塩水爆竹祭りは台湾の南部にある塩水で行われる特有の花火大会です。100万発を超えるロケット花火が神輿から一斉に放たれ、その様子がまるでハチが巣から飛び出すように見えるので、「蜂の巣花火大会」とも呼ばれています。かつて塩水でコレラ(感染症)が流行って多くの人々が亡くなり、当時は治療法がなく、神輿を引きながら爆竹を鳴らして厄除けをしたそうです。その風習が伝わり、お祭りへと発展しました。お祭りで飛んでくるロケット花火から身を守るためにヘルメットと厚手の服を着用しないといけないほどです。



出典: <https://www.flickr.com/>

たいわん
台湾ランタンフェスティバル



出典:1

たいわん
台湾ランタンフェスティバルでは広い会場に大小様々なランタンが飾り付けられます。ろうそくなどの炎ではなく、LEDなどで照らされます。地方を活性化するために、毎年フェスティバルの主催地は変更になります。地元のアーティストの展示や公演などが披露され、主催地によってお祭りの内容が変わります。毎年十二支をテーマにした「メインランタン」が登場します。左の写真は2016年(申年)のメインランタンで、高さは25メートルほどある孫悟空です。今年は戌年となるため、ランタンのデザインは台湾犬です。主催地は嘉義県なので、犬の隣に嘉義県に住むツォウ先住民の子どもと一緒にランタンとして飾り付けられています。

たいわん
台湾の先住民



台湾民族の「ツォウ族」の青年 出典:2

先住民は文字通り「先に住んでいた民族」という意味です。台湾政府に先住民16部族が認められ、54万人以上が台湾に住んでいます。台湾先住民はフィリピン、マレーシアやオセアニア、そしてアフリカのマダガスカルの人々にルーツがあります。17世紀にオランダ人、スペイン人、中国大陸の漢民族がやってきました。そして、1895年に日本との戦争に負けて植民地になりました。台湾人は歴史を通じて様々な民族と交流した結果、幅広い背景を持っています。先住民は台湾にずっと住んでいたため、台湾の文化にとって重要な役割を担っています。台湾政府はそれぞれの独特の文化や言語を守る活動に力を入れています。

Return To Innocence



台湾民の「アミ族」 出典:3

台湾の先住民「アミ族」は世界中で大ヒットした曲に影響を与えました。アミ族のパフォーマンスグループのディファンさんと妻イガイさんはパリで公演を行い、歌声が録音されました。ドイツのバンド「エニグマ」はその楽曲のサビを使って新しい曲を作りました。その曲は「Return To Innocence」(無邪気さへの帰還)と言い、1994年に公開され、アメリカやイギリスなどの音楽チャートのトップになり、1996年のアトランタオリンピックのテーマソングとしても使われました。

民族音楽:アルプスのヨーデル

ヨーデルは、甲高い裏声と低音域の地声を交えた独特の歌い方です。オーストリアとスイスのアルプス山脈で発祥し、牧童が遠く離れた仲間に自分の位置などを知らせるためのコミュニケーション手段でした。ヨーデルは19世紀に歌としてよく演奏されるようになり、20世紀にアメリカのカントリーミュージックと融合し、新しいジャンル「カントリー・ヨーデル」が誕生しました。日本でよく知られているヨーデルを使った音楽の一例は、アニメ「アルプスの少女ハイジ」のオープニングテーマです。



アルプスの風景 出典:4

モンゴル人の馬頭琴はモンゴル人の生活に欠かせない馬と密接な関係を持ちます。先端は馬の頭の形で(写真)、昔は弦が馬のしっぽでした。楽器のボディー部分はモンゴル人が飼育するヤギやラクダの皮で覆われています。演奏者は馬の鳴き声と走っている様子を上手に表現できます。「Huun-Huur-Tu」(フンフルトゥ)というバンドは馬頭琴の祖先「イギル」と多くの民族楽器を用いて演奏します。その音楽を聞くと、馬が広大な草原を駆け抜けていく様が浮かび上がります。

民族音楽:モンゴル人の馬頭琴



出典:5

出典1,2,3,4: <https://commons.wikimedia.org/>
5: <https://www.flickr.com/>